NEWS RELEASE

ENEOS

2021年6月15日

各位

ENEOSホールディングス株式会社

「第56回ENEOS児童文化賞」および「第51回ENEOS音楽賞」の受賞者決定

当社（社長：大田　勝幸）は、「第56回 ENEOS児童文化賞」および「第51回 ENEOS音楽賞」の受賞者を決定しましたので、お知らせいたします。

当社は、1966年に児童文化賞、1971年に音楽賞を創設して以来、約半世紀にわたり、わが国の児童文化・音楽文化の発展に大きな業績をあげた個人または団体を顕彰してまいりました。今年度も選考委員会[※1]による審議により、受賞者を決定しました。

なお、表彰式は、11月19日（金）にパレスホテル東京（東京都千代田区）において開催[※2]し、正賞としてトロフィー、副賞として賞金200万円を贈呈する予定です。

名称			氏名（敬称略）	分野
第56回 ENEOS児童文化賞			田島　征三 （たしま せいぞう）	絵本作家
第51回ENEOS音楽賞	邦楽部門		清元　美寿太夫 （きよもと よしじゅだゆう）	清元節浄瑠璃方
	洋楽部門	本賞	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールと沼尻竜典 （しがけんりつげいじゅつげきじょうびわこホールとぬまじり りゅうすけ）	―
		奨励賞	広島交響楽団 （ひろしまこうきょうがくだん）	オーケストラ

以　上

※1　選考委員会委員（順不同、敬称略）

【児童文化賞】

野上　暁　（児童文化研究家）
仲居　宏二（放送コンサルタント・元聖心女子大学教授）
山極　壽一（総合地球環境学研究所所長）

【音楽賞　邦楽部門】

徳丸　吉彦（聖徳大学名誉教授・お茶の水女子大学名誉教授）
塚原　康子（東京藝術大学教授）
加納　マリ（日本音楽研究家）

ENEOSホールディングス株式会社

広報部 広報グループ　〒100-8161 東京都千代田区大手町一丁目１番２号　TEL 03-6257-7150　www.hd.eneos.co.jp

【音楽賞　洋楽部門】
関根　礼子（音楽評論家）
中村　孝義（大阪音楽大学理事長・名誉教授）
舩木　篤也（音楽評論家）

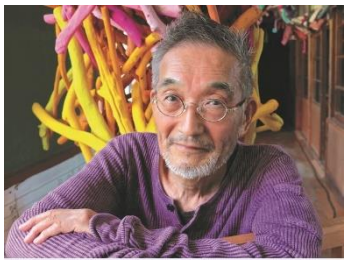
※2　新型コロナウイルスの感染拡大状況により、オンラインでの開催など、開催方法が変更となる可能性がございます。

＜添付資料＞
1. 「ENEOS児童文化賞」および「ENEOS音楽賞」の贈賞理由ならびに受賞者のプロフィール
2. 「ENEOS児童文化賞」および「ENEOS音楽賞」の概要
3. 「ENEOS児童文化賞」および「ENEOS音楽賞」の選考委員プロフィール
4. 「ENEOS児童文化賞」および「ENEOS音楽賞」歴代受賞者リスト

添付資料１

「第56回 ENEOS児童文化賞」および「第51回 ENEOS音楽賞」
贈賞理由ならびに各受賞者のプロフィール

１．第56回 ENEOS児童文化賞



©秋元 茂

田島 征三 （たしま せいぞう）
絵本作家

◆ 贈賞理由 ◆

1965年、絵本『ふるやのもり』でデビュー。1969年、『ちからたろう』で第2回ブラチスラバ世界絵本原画展金のりんご賞を受賞。後に同展国際審査委員を務めるなど日本を代表する絵本作家である。新潟県十日町の廃校を利用した「絵本と木の実の美術館」で「空間絵本」にチャレンジするなど、多様で意欲的な作家活動を展開。〈日・中・韓平和絵本〉プロジェクトを主導し、自作の『ぼくのこえがきこえますか』は、国際的に高く評価されている。傘寿（80歳）を迎えた昨年、少年時の原体験をモチーフにした絵本『つかまえた』で、生きものの命と向き合った生々しい感触を躍動的に再現するなど、デビュー以来半世紀以上にわたって常に斬新で意欲的な挑戦をし続け、絵本文化を牽引してきた功績は高く評価される。

（児童文化賞 選考委員会）

◆ プロフィール ◆

1940年大阪府生まれ。幼少期を高知県で過ごす。1965年、初めての絵本「ふるやのもり」出版。東京・京橋「南天子画廊」にて初個展。以来、絵画、絵本、イラストレーション、エッセイ、造形作品等を発表し続けている。「黒い太陽７人の画家・人人展」（日本橋三越）に、創立会員として斎藤真一、中村正義、山下菊二、大島哲以らと参加（1974）。池田20世紀美術館（2003）、平塚市美術館（2008）、ふくやま美術館（2011）にて個展。新潟市立美術館（1980）、高知県立美術館（2006）にて田島征彦と二人展。練馬区立美術館にて谷川晃一・宮迫千鶴と三人展（2005）等。2009年新潟県十日町市の廃校になった小学校を丸ごと絵本にした「空間絵本」を制作。「絵本と木の実の美術館」開館。2011～2018年、日中韓平和絵本プロジェクトに尽力。2013～2019年、香川県大島のハンセン病元患者の療養所で、「青空水族館」、「森の小径」、「N さんの人生・大島七十年」を制作。

◆ 主な受賞歴 ◆

1960年 第一回全国既成観光ポスター展 金賞および特別賞
1969年 絵本「ちからたろう」 BIB 世界絵本原画展 金のリンゴ賞
1974年 絵本「ふきまんぶく」 講談社出版文化賞
1988年 絵本「とべバッタ」 絵本にっぽん賞
1989年 絵本「とべバッタ」 年鑑イラストレーション作家賞、小学館絵画賞
2010年 絵本「オオカミのおうさま」 日本絵本賞
2018年 伊藤忠商事株式会社の新聞広告イラストレーションで ADC 賞
2019年 巌谷小波文芸賞
2021年 絵本「つかまえた」 産経児童出版文化賞美術賞

2.　第51回 ENEOS音楽賞 邦楽部門

清元 美寿太夫 （きよもと よしじゅだゆう）
清元節　浄瑠璃方

◆ 贈賞理由 ◆

清元節の重鎮、清元美寿太夫師は、これまで長い間、清元節の太夫としてその美しいのどで多くの人を魅了している。歌舞伎や舞踊の会はもちろんのこと、素浄瑠璃の演奏会でも美寿太夫師はなくてはならない存在であり、東京をはじめ京都、大阪など、その出演回数は数えきれない。師の安定した語りは高く評価され、40年あまり共に演奏してきた三味線の清元美治郎師と開いた演奏会「二人会」など、一連の活躍で2014年度芸術選奨文部科学大臣賞を受賞、その実力が広く認められた。清元美寿太夫師のこれまでの業績を称えるとともに、師の清元節らしい、情感のこもった節回しを次の世代にもぜひ伝えてほしいと願い、賞を贈るものである。

（音楽賞邦楽部門　選考委員会）

◆ プロフィール◆

1943年東京都生まれ。父は清元若寿太夫。母は清元延若福。兄は初代清元榮三（人間国宝：故人）。1956年、六代目清元延寿太夫、三代目清元栄次郎（後の初代清元栄寿郎）に師事。1959年、美寿太夫の名を許される。同年、新橋演舞場 「西川流鯉風会」の「梅川」ほかで初舞台。歌舞伎座「昔噺桃太郎」で歌舞伎の初舞台。1977年 京都南座「夕顔棚」で初めて歌舞伎の立語りを勤める。1986年アルバム 「清元榮三・清元美寿太夫花吟集」を発表。2014年、重要無形文化財清元節保持者として認定。同年、清元協会理事に就任。このほかに1969年ごろから宮薗節を宮薗千之に師事、宮薗千弘太夫を名乗る。1983年ごろから地唄を富崎冨美代に師事、富柳美寿を名乗る。

◆ 主な受賞歴 ◆

1988年　第１回公益財団法人清栄会奨励賞
1993年　文化庁芸術祭賞
2015年　文化庁芸術祭賞（大賞）
2015年　文化庁芸術選奨（文部科学大臣賞）

3.　第51回 ENEOS音楽賞 洋楽部門本賞

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールと沼尻竜典
（しがけんりつげいじゅつげきじょうびわこホールとぬまじりりゅうすけ）

©荒谷良一

◆ 贈賞理由 ◆

1998年に「創造する劇場」との看板を掲げて設立された「びわ湖ホール」は、芸術諸分野でまさに創造的な活動を展開し、都市圏の劇場にも増して傑出した存在感を示し続けてきた。特に音楽分野では、専属の「びわ湖ホール声楽アンサンブル」の活動や、初代芸術監督・若杉弘のもと、ヴェルディ日本初演作品シリーズで大きな成果を上げ、つづく第2代の沼尻竜典のもとでも、「リング」全曲などのワーグナーや、近現代のオペラ作品の上演で圧倒的な成功を成し遂げ、今や我が国のオペラ制作や上演において欠くべからざる存在となっている。活動を成功に導いたホールの充実した運営や制作力、ここ10数年、芸術的に牽引した沼尻竜典の秀でた能力を顕彰し、さらなる充実を期待して本賞を贈賞する。

（音楽賞洋楽部門　選考委員会）

◆ プロフィール ◆

1998年9月5日開館、西日本初となる4面舞台を備えた大ホールおよび中ホール・小ホールを有する。音響の素晴らしさはもとより、琵琶湖を一望できる美しいロケーションにファンも多い。初代芸術監督は若杉弘、2007年に2代芸術監督の沼尻竜典を迎え、ワーグナーのオペラや春の音楽祭などを新たに展開。国際的水準の舞台芸術を最高の鑑賞条件で提供するとともに、誰もが舞台芸術の楽しみを味わい、繰り返し来場いただけることを目指して、オペラ、オーケストラ、室内楽、ワールドミュージック、バレエ、ダンス、演劇、 伝統芸能など、幅広い多彩なジャンルで国内外の優れた公演を行っている。また、びわ湖ホールの独自の創造活動の核として、日本初の公共ホール専属声楽家集団である「びわ湖ホール声楽アンサンブル」を設置し、自主制作によるオペラ公演や、県内の学校等を対象とした公演を行うなど、音楽の普及活動も積極的に行っている。

◆　主な受賞歴　◆

びわ湖ホール

- 2003年　第１２回三菱信託音楽賞
- 2006年　第６１回文化庁芸術祭音楽部門大賞
- 2011年　地域創造大賞（総務大臣賞）
- 2016年　第２５回三菱UFJ信託音楽賞
- 2020年　第６８回菊池寛賞
- 2020年　関西元気文化圏賞特別賞

沼尻竜典

- 1990年　ブザンソン国際指揮者コンクール優勝
- 1991年　第1回出光音楽賞
- 2005年　第46回毎日芸術賞
- 2011年　芸術選奨文部科学大臣賞
- 2017年　紫綬褒章

2005年第18回、2006第19回、2020年第33回ミュージック・ペンクラブ音楽賞

4.　第51回　ENEOS音楽賞 洋楽部門奨励賞

広島交響楽団（ひろしまこうきょうがくだん）
オーケストラ

◆ 贈賞理由 ◆

広島交響楽団の近年の進展ぶりは目覚ましい。2017年以降、新設した「音楽総監督」に下野竜也を迎え、秋山和慶体制で培ったアンサンブル能力をさらに向上させた。また「ディスカバリー・シリーズ」も継承・発展させ、演奏機会の希少な作品をトークを交えて紹介、聴衆の関心領野は格段に拡がっている。加えて同年より実施した「Music for Peace プロジェクト」を特筆したい。マルタ・アルゲリッチを筆頭に世界的アーティストが演奏会および講習会に参加し、2019年には楽団のワルシャワ公演が実現。原子爆弾被爆75年の2020年には、コロナ禍に直面しつつも被爆ピアノを用いた藤倉大の新作協奏曲「Akiko's Piano」の世界初演を敢行した。地域に、そして世界に密着しながら音楽性を高めてゆく姿勢を支持し、奨励賞を贈る。

（音楽賞洋楽部門　選考委員会）

◆　プロフィール　◆

国際平和文化都市“広島”を拠点に、“Music for Peace～音楽で平和を～”を旗印として活動する、プロオーケストラ。1963年「広島市民交響楽団」として設立、1970年「広島交響楽団」へと改称し1972年にプロ化。2017年より下野竜也が音楽総監督を務め、その意欲的な音楽づくりが注目を集めている。年10回の定期演奏会や、ディスカバリー・シリーズ、「音楽の花束」名曲シリーズをはじめ、近隣都市での地域定期、巡回コンサートや各種依頼公演など年間100回を超える演奏活動を行っており、地域に根差した楽団として「広響」の愛称で親しまれる。1991年の「国連平和コンサート」（オーストリア）での初の海外公演以降、チェコ、フランス、ロシア、韓国、そして2019年にはポーランド・ワルシャワの国際音楽祭に招かれるなど、音楽による海外へのヒロシマのメッセージの発信も重ねている。「音楽の芽プロジェクト」として、学校での音楽鑑賞教室やプロの野球・サッカーチームとのコラボレーション「P3 HIROSHIMA」など、次世代層に向けた音楽文化の普及活動にも積極的に取り組んでいる。

◆ 主な受賞歴 ◆

1979年 広島市政功労賞
1980年 広島文化賞
1992年 平成4年度地域文化功労者表彰
1997年　第54回中国文化賞
2000年　第17回県民文化奨励賞
2003年　第5回国際交流奨励賞
2003年　文化対話賞（ユネスコ）
2014年　広島市民賞

添付資料２

「ENEOS児童文化賞」および「ENEOS音楽賞」の概要

当社は、ENEOS児童文化賞およびENEOS音楽賞を、日本の児童文化、音楽文化の発展・向上に大きく貢献した個人または団体をたたえる目的で創設しました。毎年、児童文化賞、音楽賞邦楽部門、音楽賞洋楽部門本賞、音楽賞洋楽部門奨励賞の4賞につき、各々1個人または1団体を選出し、それぞれトロフィーと副賞賞金200万円を贈呈しております。

【ENEOS児童文化賞】

1966年に創設した児童文化賞は、今年で56回を数える歴史ある賞に発展しました。受賞者と受賞分野の多彩さがこの賞の特色であり、童画家、教育者、写真家、児童文学作家、子供新聞の編集者、ミュージカル主宰者など、全国的に著名な活動から地域の活動まで、児童文化の各種分野から幅広く受賞者が選ばれています。

【ENEOS音楽賞】

1971年に創設した音楽賞は、今年で51回目を迎えます。また、洋楽部門では1989年から、日本を代表する優れた若手音楽家を讃えるために奨励賞を設けました。邦楽部門においては、これまでに23人の受賞者が重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定されています。邦楽部門・洋楽部門を併せ持ち、単年度内の功績ではなく、それまでの実績全体に視点をおいた選考を行っている点がこの賞の特色です。

選考方法

児童文化界、音楽界の有識者の方々に受賞候補者の推薦を依頼し、その結果を参考にして、各部門3名の選考委員により構成される選考委員会において審議の上、受賞者を決定いたします。

添付資料３

「ENEOS児童文化賞」および「ENEOS音楽賞」 選考委員プロフィール

【児童文化賞】

野上 暁 氏（児童文化研究家）

中央大学卒業。日本ペンクラブ常務理事。日本国際児童図書評議会副会長。日本児童文学学会会員。東京純心大学こども文化学科客員教授。著書に『おもちゃと遊び』『“子ども”というリアル』『子ども学 その源流へ』『越境する児童文学』『子ども文化の現代史』共編著に『こどもの本ハンドブック』『いま子どもに読ませたい本』『明日の平和をさがす本』など。

仲居 宏二 氏（放送コンサルタント・元聖心女子大学教授）

早稲田大学第一文学部哲学科卒業。ＮＨＫでは主に教育教養番組制作。学校放送番組部長、日本賞コンクール事務局長を経て、関連会社ＮＨＫエデュケーショナル常務取締役後、ボツワナ教育テレビ開設に引き続き、現在ベトナム、マラウイ、バングラデシュ、などの教育チャンネルのコンサルタントに当たっている。２０１２年より聖心女子大学教授を務め、２０１５年より同大学非常勤講師。

山極 壽一 氏（総合地球環境学研究所所長）

京都大学大学院理学研究科博士課程単位取得退学。京都大学理学博士。人類学者、霊長類学者、ゴリラを主たる研究対象としている。
（財）モンキーセンター リサーチフェロー、京都大学霊長類研究所助手、同大学院理学研究科助教授、教授を経て、２０２０年９月末まで京都大学総長を務める。著書に『家族進化論』『「サル化」する人間社会』『京大式おもろい勉強法』などがある。

【音楽賞　邦楽部門】

徳丸 吉彦 氏

（聖徳大学名誉教授・お茶の水女子大学名誉教授）

東京大学文学部卒業。ラヴァール大学（カナダ）より博士号。国立音楽大学・お茶の水女子大学・放送大学を経て現在は聖徳大学名誉教授、お茶の水女子大学名誉教授。日本語による最近の著作は『ものがたり日本音楽史』『ミュージックスとの付き合い方：民族音楽学の拡がり』。他に『三味線音楽の旋律的様相』（仏語）、『音楽・記号・間テクスト性』（英独仏語）、共編に『ガーランド世界音楽辞典７：東アジア』（英語）がある。

塚原 康子 氏（東京藝術大学教授）

東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了（学術博士）。現在、東京藝術大学楽理科教授。とくに近代を中心とする日本音楽史を専攻し、主要著書に『十九世紀の日本における西洋音楽の受容』『明治国家と雅楽』共著に『はじめての音楽史』『日本の伝統芸能講座―音楽―』などがある。

加納 マリ 氏（日本音楽研究家）

武蔵野音楽大学大学院音楽研究科（音楽学専攻）修了。日本音楽史を専門に、雅楽、地方の舞楽、長唄、胡弓などを研究。文化庁芸術祭審査委員（音楽）、文化庁「次代を担う子どもの芸術体験事業」企画委員（伝統芸能）、文化庁芸術選奨選考委員（音楽）、国立劇場邦楽公演専門委員などを務める。

【音楽賞　洋楽部門】

関根 礼子 氏（音楽評論家）

国立音楽大学楽理学科卒。音楽旬報社勤務中から音楽評論活動を行い、１９８１年よりフリー。『日本のオペラ年鑑』初代編纂委員長を経て現在編纂委員。昭和音楽大学オペラ研究所嘱託研究員。三菱UFJ信託芸術文化財団、東京オペラシティ文化財団、ニッセイ文化振興財団の各理事、新国立劇場専門委員、佐川吉男音楽賞実行委員ほか。著書に『オペラの世界』『日本オペラ史１９５３～』共著に『オペラ事典』など。

中村 孝義 氏（大阪音楽大学理事長・名誉教授）

関西学院大学大学院文学研究科博士課程修了。ヴュルツブルク大学音楽学研究所客員研究員、大阪音楽大学教授、同大学ザ・カレッジ・オペラハウス館長、大学院研究科長・学長を経て現在、理事長・名誉教授。さらに日本音楽芸術マネジメント学会理事長、（独法）日本芸術文化振興会基金運営委員会委員長、（公財）ロームミュージックファンデーション、（公財）アフィニス文化財団、（公財）花王芸術・科学財団など、多くの財団の理事や評議員を務める。著書に『室内楽の歴史』『ベートーヴェン 器楽・室内楽の宇宙』『音楽の窓』など。

舩木 篤也 氏（音楽評論家）

東京大学大学院とブレーメン大学に学ぶ。「読売新聞」で演奏評を、ＮＨＫで音楽番組の解説を担当。雑誌等でも執筆。東京藝術大学ほかでドイツ語講師。共著に『魅惑のオペラ・ニーベルングの指環』、共訳書に『アドルノ音楽・メディア論』など。（公財）アフィニス文化財団・オーケストラ助成専門委員、（公財）サントリー芸術財団・佐治敬三賞およびサントリー音楽賞選考委員、日本ワーグナー協会理事。

添付資料4

「ENEOS児童文化賞」 歴代受賞者リスト　（敬称略、＊は故人）

回	年　度	氏名・団体名	分　野
1	1966	初山　滋＊ 日本童話会（会長・後藤 楢根＊）	童画家
2	1967	千葉省三＊ 人形劇団プーク（代表・川尻泰司＊）	童話作家
3	1968	椋　鳩十＊ ダークダックス	児童文学者 コーラスグループ
4	1969	金沢嘉市＊ 市川市立養護学校の詩集「いずみ」	教育評論家
5	1970	眞理ヨシコ 戸塚　廉＊	童謡歌手 「おやこ」新聞編集発行
6	1971	吉澤　章＊	折り紙作家
7	1972	管野邦夫	仙台市野草園園長
8	1973	アン・ヘリング	児童文学研究家
9	1974	滝平二郎＊	きり絵作家
10	1975	辻村ジュサブロー	人形作家
11	1976	冨田博之＊ 劇団「風の子」（代表・多田　徹＊）	青少年文化研究者
12	1977	坂本小九郎と湊中学校養護学級の生徒達	美術教育と版画制作
13	1978	佐野浅夫 瀬川康男＊	俳優 絵本作家
14	1979	田沼武能	写真家
15	1980	渡辺茂男＊	児童文学者
16	1981	ろばの会	作曲家グループ
17	1982	富山県立近代美術館（館長・小川正隆＊）	
18	1983	萩本欽一	TVタレント
19	1984	長崎県外海町（町長・平野武光）	
20	1985	東京放送児童合唱団（代表・近藤真司）	
21	1986	手で見るギャラリー・TOM（代表・村山亜土＊・治江）	
22	1987	ボニージャックス	コーラスグループ
23	1988	人形劇カーニバル飯田実行委員会（実行委員長・松澤太郎＊）	
24	1989	岡本忠成＊	アニメーション作家
25	1990	与田準一＊	童謡・童話作家
26	1991	今西祐行＊	児童文学作家
27	1992	「中学生日記」	NHKテレビ番組
28	1993	松居　直	福音館書店会長
29	1994	香川県大川郡大内町（町長・中條弘矩）	
30	1995	「まんが日本昔ばなし」	テレビアニメ番組：愛企画センター制作
31	1996	神沢利子	児童文学作家
32	1997	阪田寛夫＊	詩人・作家
33	1998	細川真理子＊	「札幌こどもミュージカル」代表
34	1999	太田大八＊	絵本画家
35	2000	谷川俊太郎	詩人
36	2001	大原れいこ＊	テレビ演出家
37	2002	長　新太＊	絵本作家
38	2003	山中　恒	児童文学作家
39	2004	越部信義＊	作曲家
40	2005	松谷みよ子＊	作家
41	2006	演劇集団 円　円・こどもステージ	児童劇
42	2007	佐藤さとる＊	児童文学作家
43	2008	今江祥智　＊	児童文学作家
44	2009	神宮輝夫	児童文学研究家・翻訳家
45	2010	今森光彦	写真家
46	2011	河合雅雄＊	霊長類学者
47	2012	加古里子＊	児童問題研究家
48	2013	角野栄子	作家
49	2014	公益財団法人　東京子ども図書館	
50	2015	五味太郎	絵本作家
51	2016	あまんきみこ	児童文学作家
52	2017	萩尾望都	漫画家
53	2018	奥本大三郎	作家・フランス文学者
54	2019	那須正幹	児童文学作家
55	2020	落合恵子	作家
56	2021	田島征三	絵本作家

「ENEOS音楽賞」 邦楽部門 歴代受賞者リスト （敬称略、＊は故人）

回	年 度	氏名・団体名	分 野
1	1971	山口五郎＊	琴古流尺八
2	1972	松崎倭佳＊ 稀音家幸＊	長唄 唄方 長唄 三味線
3	1973	菊原初子＊	地歌 箏曲
4	1974	田中伝左衛門＊	歌舞伎 長唄囃子
5	1975	杵屋正邦＊	現代邦楽作曲
6	1976	観世寿夫＊	能楽 シテ方
7	1977	山彦河良＊	河東節
8	1978	杵屋佐登代＊	長唄 唄方
9	1979	鶴田錦史＊	薩摩琵琶
10	1980	町田佳聲＊ 福原百之助＊	邦楽研究評論 長唄 囃子笛方
11	1981	太田里子＊	地歌 箏曲
12	1982	今藤長十郎＊	長唄 三味線
13	1983	都 一中＊	一中節 三味線
14	1984	常磐津文字兵衛	常磐津節 三味線
15	1985	浅川玉兎＊ 竹本住大夫＊	長唄研究 義太夫節太夫
16	1986	杵屋五三郎＊	長唄 三味線
17	1987	中田博之＊	箏曲
18	1988	平井澄子＊	現代邦楽
19	1989	米川敏子＊	箏曲
20	1990	日本音楽集団	現代邦楽創造グループ
21	1991	尺八三本会	尺八
22	1992	宮田哲男	長唄 唄方
23	1993	一噌幸政＊	能楽笛方
24	1994	都一いき＊	一中節
25	1995	藤井久仁江＊	地歌 箏曲
26	1996	竹本駒之助	女流義太夫
27	1997	芝 祐靖＊	雅楽
28	1998	観世榮夫＊	能楽 シテ方
29	1999	鶴澤清治	文楽 三味線方
30	2000	田島佳子＊	長唄 三味線方
31	2001	山本東次郎	大蔵流狂言
32	2002	川瀬白秋＊	箏曲 胡弓
33	2003	大和久満＊	大和楽 三味線方
34	2004	米川裕枝	箏曲
35	2005	味見 亨	長唄 三味線方
36	2006	野坂惠子＊	箏曲
37	2007	横道萬里雄＊	楽劇評論
38	2008	今藤政太郎	長唄 三味線方
39	2009	藤舎呂船	邦楽囃子
40	2010	近藤乾之助＊	能楽 宝生流 シテ方
41	2011	豊竹咲大夫	文楽義太夫節大夫
42	2012	清元美治郎＊	清元節 三味線方
43	2013	今藤尚之	長唄 唄方
44	2014	中川善雄	邦楽囃子 笛方
45	2015	沢井一恵	箏曲
46	2016	稀音家義丸	長唄演奏家・研究家
47	2017	豊竹呂太夫	文楽義太夫節太夫
48	2018	杵屋勝国	長唄 三味線
49	2019	観世清和	能楽 観世流シテ方
50	2020	伶楽舎	雅楽演奏グループ
51	2021	清元美寿太夫	清元節 浄瑠璃方

「ENEOS音楽賞」 洋楽部門本賞　歴代受賞者リスト　（敬称略、＊は故人）

回	年　度	氏名・団体名	分　野
1	1971	江藤俊哉＊	ヴァイオリン
2	1972	朝比奈　隆＊	指揮
3	1973	東京室内歌劇場	オペラ
4	1974	巌本真理＊弦楽四重奏団	室内楽
5	1975	小澤征爾	指揮
6	1976	鈴木鎮一＊	音楽教育
7	1977	園田高弘＊	ピアノ
8	1978	音楽之友社	音楽総合出版
9	1979	小林道夫	チェンバロ
10	1980	二期会	声楽研究・オペラ公演
11	1981	武満　徹＊	作曲
12	1982	渡辺暁雄＊	指揮
13	1983	札幌交響楽団	オーケストラ
14	1984	野村光一＊	音楽評論
15	1985	東　敦子＊	ソプラノ
16	1986	藤原歌劇団	オペラ
17	1987	堤　剛	チェロ
18	1988	ｱﾝﾘｴｯﾄ・ﾋﾟｭｲｸﾞﾆﾛｼﾞｪ＊	ピアノ
19	1989	吉田雅夫＊	フルート
20	1990	三善　晃＊	作曲
21	1991	若杉　弘＊	指揮
22	1992	中澤　桂＊	ソプラノ
23	1993	和波孝禧	ヴァイオリン
24	1994	松村禎三＊	作曲
25	1995	今井信子	ヴィオラ
26	1996	秋山和慶と東京交響楽団	
27	1997	畑中良輔＊	バリトン・音楽評論
28	1998	松本美和子	ソプラノ
29	1999	鈴木雅明とバッハ・コレギウム・ジャパン	
30	2000	大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウス	
31	2001	西村　朗	作曲
32	2002	海老彰子	ピアノ
33	2003	福井　敬	テノール
34	2004	小栗まち絵	ヴァイオリン
35	2005	中村紘子＊	ピアノ
36	2006	モーツァルト劇場（主宰：高橋英郎）	オペラ
37	2007	前橋汀子	ヴァイオリン
38	2008	ゲルハルト・ボッセ＊	指揮
39	2009	大野和士	指揮
40	2010	田中信昭	合唱指揮
41	2011	公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団	オーケストラ
42	2012	舘野　泉	ピアノ
43	2013	小山実稚恵	ピアノ
44	2014	佐々木典子	ソプラノ
45	2015	寺神戸亮	ヴァイオリン・指揮
46	2016	井上道義	指揮
47	2017	モルゴーア・クアルテット	弦楽四重奏
48	2018	池辺晋一郎	作曲
49	2019	尾高忠明	指揮
50	2020	佐藤美枝子	ソプラノ
51	2021	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールと沼尻竜典	

「ENEOS音楽賞」 洋楽部門 奨励賞歴代受賞者リスト （敬称略）

回	年 度	氏名・団体名	分 野
1	1989	吉野直子	ハープ
2	1990	漆原朝子	ヴァイオリン
3	1991	長谷川陽子	チェロ
4	1992	佐久間由美子	フルート
5	1993	仲道郁代	ピアノ
6	1994	錦織 健	テノール
7	1995	千住真理子	ヴァイオリン
8	1996	高橋薫子	ソプラノ
9	1997	樫本大進	ヴァイオリン
10	1998	若林 顕	ピアノ
11	1999	佐野成宏	テノール
12	2000	横山幸雄	ピアノ
13	2001	森 悠子主宰長岡京室内アンサンブル	
14	2002	矢崎彦太郎	指揮
15	2003	川田知子	ヴァイオリン
16	2004	斉田正子	ソプラノ
17	2005	渡辺玲子	ヴァイオリン
18	2006	篠﨑和子	ハープ
19	2007	藤村実穂子	メゾソプラノ
20	2008	幸田浩子	ソプラノ
21	2009	趙 静	チェロ
22	2010	藤倉大	作曲
23	2011	粟國淳	オペラ演出
24	2012	山崎伸子	チェロ
25	2013	古典四重奏団	弦楽四重奏
26	2014	下野竜也	指揮
27	2015	川本嘉子	ヴィオラ
28	2016	萩原麻未	ピアノ
29	2017	中村恵理	ソプラノ
30	2018	小倉貴久子	フォルテピアノ
31	2019	吉井瑞穂	オーボエ
32	2020	アントネッロ（主宰：濱田芳通）	古楽アンサンブル
33	2021	広島交響楽団	オーケストラ